

先週の説教要旨

「主は本当に復活された」井上隆晶牧師
エゼキエル 1 : 10~11、26~28、
ルカ 24 : 36~49

❶【エゼキエルに現れた神キリスト】エゼキエルはバビロンの地で、大天使ケルビムに担がれている神の姿を見ました。ケルビムは四つの顔と四つの翼を持つ天使で、たくさんの目がありました。これはヨハネの黙示録にも出て来ます。

「第一の生き物は獅子のようであり、第二の生き物は若い雄牛のようで、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は空を飛ぶ鷲のようであった。この四つの生き物はそれぞれ六つの翼があり、その周りにも内側にも一面に目があった。彼らは昼も夜も絶え間なく言い続けた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主。かつておられ、今もおられ、やがて来られる方。」(黙示録 4 : 6~8) やがて来られるのですから、玉座に座しているのはキリストであると事が分かります。後に、キリスト教の伝統では、これら四つの顔が四福音書を象徴すると解釈されました。マタイは獅子(王なるキリスト)、マルコは人間(イエスの人間性)、ルカは牛(イエスの犠牲)、ヨハネは鷲(イエスの神性)を現しています。大祭司や一部の祭司しか見る事のできなかった至聖所にいたケルビムが、今バビロンの地で現れたのです。それは、全世界が神の至聖所であることの証でした。神はエゼキエルにバビロンも私の聖所であり、私はここにおり、ここで今も働き、支配しているのだと言われたのです。何とすごいことでしょう。全地は神の聖所です。神は活動し、あなたのすぐ側におられます。キリストはその昔、モーセに燃える茨の火の中で現れ、イザヤには神殿で垂

れた衣を着た人の子のような姿で現れ、エゼキエルにはケルビムに担がれる者として現れ、使徒たちには肉をとったイエスとして現れました。そして大天使ケルビムではなく、四人の福音書記者に担がれることを喜びとなさいます。そればかりか、キリストは私たちの中に入れて、私と一体になられます。今、私は神キリストを担ぐ者となりました。ああ、何と恐るべきことでしょう。

❷【復活の身体の特徴】

クレオパとルカがエルサレムの教会に戻り、イエス様は生きていたという話をしていると、その真ん中にイエス様が真ん中に立たれ、挨拶をされました。弟子たちは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思いました。するとイエス様は「なぜ、うろたえるのか。どうして心に疑いを起こすのか。わたしの手や足を見なさい。まさしく私だ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおりに、わたしにはそれがある。」

(38~40 節) と言われました。イエス様の復活した体は幽霊ではありません。単なる霊ではなく、体を持っていて、実際に目で見ることができ、手足があって、手で触ることもできました。しかもこの後「ここに何か食べ物があるか」(41 節)と言われ、この世の食べ物である焼いた魚を食べられたと言います。これは不思議な体です。霊のようでありながら触ることが出来、この世の物も食べると言うのです。考えられるのは地上の体と天上の体、人間の性質と神の性質の二つを完全に併せ持っていたということです。でもこれは何も驚くことではなく、神が人になったという「受肉」を本気で信じる人には、十分受け入れられることなのです。6世紀の教父マクシモスは「キリストは鉄として切り、火として焼く」と語りました。↑

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957年12月1日 教会設立 2001年12月2日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

Eメールアドレス : 3533osgm@jcom.zaq.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上隆晶

2026年5月3日 No.1871



《何も捕れない漁》

都島教会の2026年度の宣教方針

標語 《主キリストの忠実な僕になろう》

聖句 「目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。」(マタイ 24 : 42)

2026年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 28 名を目指します。
- 2 時をよく用いて、出会った人を礼拝にお誘いします。
- 3 み言葉を聞くだけでなく、行います。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。